

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 34 号	氏名	稲富 宏之
学位審査委員	主 査	篠原一之	
	副 査	森 望	
	副 査	北岡 隆	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 統合失調症患者の作業療法の治療計画を作成するために、作業遂行能力を簡易に評価する手法が必要である。そこで、認知機能の中でも作業遂行能力を反映すると考えられている、手続き学習と表象機能と統合失調症の作業遂行能力の関連性を検討するものであり、本研究の目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 手続き学習を評価するためには「ボタン押し課題」を用い、表象機能を評価するためには「樹木画テスト」を用い、作業遂行能力を評価するためには「労働または課題の遂行」を用いて、それらの関連性を解析したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、統合失調症において、作業遂行能力に関わらず、手続き記憶は保たれていることを示した。一方、作業遂行能力の低い統合失調症患者では表象機能が障害されていたが、作業遂行能力の高い統合失調症患者では表象機能は保たれていた。以上のことから、表象機能を評価する樹木画テストは、統合失調症患者の作業遂行能力の評価に役立つことが示唆され、今後の研究が大いに期待される。</p> <p>以上のように、本論文は統合失調症の作業遂行能力と表象機能の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			